

令和7年度第1回佐賀市立図書館協議会 議事録

開催日時: 令和7年10月2日(木) 15時00分～16時15分

開催場所: 佐賀市立図書館2階 多目的ホール

出席者: 【委員: 8名】

白根会長、荒木委員、大塚委員、原田委員、梅崎委員、高原委員、福田委員、堀川委員

【事務局: 9名】

八谷館長、増本副館長、江里口サービス一係長、中島サービス二係長

大塚諸富分館長兼川副分館長、宮崎大和分館長、詫間富士分館長兼三瀬分館長

江頭東与賀分館長兼久保田分館長、協議会担当 吉田

【傍聴者: 5名】

1. 開会

2. 館長挨拶・職員紹介

3. 協議会

(1) 会長挨拶(白根会長から挨拶)

(2) 副会長選出

・横山氏が前任の家永氏から引き継ぐことを了解いただいていることを説明

(3) 議事

① 前回協議報告

(事務局)

○ 前回協議報告

令和7年3月21日に開催した協議会の議事は、「前回協議会報告」、「令和7年度佐賀市立図書館事業計画について」で、別紙議事録のとおり

○ 前回の協議会でいただいたご意見への対応状況

(わかりやすい案内表示について)

・子どもに職員がわかるように、「聞きたいことがあるときは青いエプロンのひとにきいてね」というイラスト入りポスターを児童カウンター前に掲示した。

児童カウンターに掲示している「こども相談カウンター」の案内をわかりやすい内容に変更した。

○ 継続対応中の案件

前回から対応状況の変更点なし

○大規模改修に関する意見（P5～6）

- ・展示スペースやボランティア、子どもの利用など、また施設設備に関するもの、ソフト面に関する要望・意見をいただいている。
- ・子どもの利用に関連して、佐賀市が取り組んでいる、子どもが通過した位置情報を記録することで、見守りやもしもの時の検索を手助けする「OTTA」という子ども見守りサービスがある。その位置情報を記録するための見守りスポットが、先日、図書館にも設置された。

【質疑・意見】

（質疑・意見なし）

②令和6年度図書館事業報告

（事務局）

別冊「佐賀市立図書館事業計画の実施報告」のとおり

○第3次佐賀市立図書館サービス計画の成果指標

- ・令和6年度の目標と実績と「第3次佐賀市立図書館サービス計画」が満了する今年度の目標値を記載している。
- ・「佐賀市立図書館のサービスが充実していると思う市民の割合」は、教育委員会が市民を対象に毎年実施しているアンケート調査によるもの
- ・「佐賀市立図書館のサービスに満足している利用者の割合」は、図書館来館者に対するアンケート調査によるもの
- ・「佐賀市立図書館のサービスが充実していると思う市民の割合」は目標値には達していないが、「佐賀市立図書館のサービスに満足している利用者の割合」は目標値を大きく上回っている。

○令和6年度の事業実施にかかる留意点

- ・「電子図書館システム」は、7月に小中学校の教職員と学校司書にアンケート調査を実施
- ・図書館改修の方向性を定める基本構想・基本計画の策定において、4月から5月にかけてパブリックコメントを実施して意見聴取した。
- ・改修後の運営に民間活力の導入を検討するためのサウンディング型市場調査を今年2月に実施

○「第3次佐賀市立図書館 サービス計画」に掲げる、4つの基本目標の達成状況

「個人の自由な学びや地域づくりに役立つ図書館」

- ・「市民の図書館利用登録率」は毎年伸びているが、「貸出サービスを利用した市民の数」と「市民一人あたりの貸出点数」は減少している。これは新型コロナウイルス感染症が蔓延していた令和2～4年頃は、自宅生活のために貸出が一時的に増加したものの、その制約がなくなったことで、来館して館内で過ごす方が増加したためと推察する。

「子供の成長に役立つ図書館」

- ・ページ下部の「その他の指標」において、「子どもに本を読んであげている家庭の割合」はほぼ変わらないが、「学校の授業時間以外に読書をする小学生の割合」は若干低下し、「中学生の割合」は10%以上低下している。

「多様な人々が集う図書館」

- ・目標値を上回っている。「外国語の利用案内」や「館内案内のやさしい日本語対応」の取り組みや、多目的トイレのウォシュレット設置などにより居心地が良くなった、と感じられる方が増えたのではないかと推察する。

「市民と共に変革を進める図書館」

- ・上段の「各年度の事業計画の目標達成率」は、目標に対して大きく下回っている。
設定している目標値が、新型コロナウイルスがまん延する前の数値をベースに設定しており、新型コロナウイルス感染症のまん延を機会に、イベントの開催方法や募集人数の見直しなどを図ったりしたことによるものである。

「図書館ボランティアの満足度」

- ・目標を上回っている。図書館は、読み聞かせ、対面朗読、美化活動など様々なボランティアの皆様によって運営を支援いただいているが、活動が予定どおり実施できていることによるものと思われる。

○令和6年度の重点事業の実施状況

「電子図書館システム試験導入事業」

- ・令和5年6月から2年間で試験導入期間として運用して、効果検証を図った。
- ・電子図書館で取り扱う資料は、子ども向けのものを中心に選書を行い、また、市立の小中学生には専用のアカウントを全員に発行し、学校で使用するパソコンには、デスクトップ画面に電子図書館のショートカットを設けて、いつでも簡単に利用できるようにした。
- ・令和6年度は、利用者データの登録・更新や、新たな電子書籍の発注など、サービスの運用継続にかかる事務作業と、正式運用に向けた学校向けアンケート調査の実施に取り組んだ。
- ・アンケートは、令和6年7月から8月にかけて、教職員及び学校司書を対象に実施し、教職員602名、学校司書40名から回答を取得した。
- ・教職員の認知度が非常に低かったことから、その対応として校長会での周知や学校図書館への広報を実施した。
- ・保護者向けに、学校だよりの活用やさがんメールでの周知を図ったことにより、閲覧回数が伸びた。
- ・電子書籍の所蔵数は、令和6年度末で商用電子書籍が851点、独自資料が1,090点
- ・商用電子書籍は、佐賀南ロータリークラブ様から190点の寄付をいただいた。

- ・利用状況は成果指標欄のとおりで、閲覧回数は目標値を上回っている。

「(本館)大規模改修事業」

- ・基本設計は、基本構想・基本計画を踏まえて、30年先も市民に愛される図書館として、また、本を好きになるきっかけを生み出す場所、サードプレイスとなるような考え方で進めている。
- ・市民からの意見に対して、屋内は、椅子やベンチの配置により、のびのびと過ごせる空間をつくることや、子どもを連れて過ごしやすい環境を整えたいと考えている。また、屋外は出入口の変更により、公園と図書館の往来や北駐車場からの利便性向上などを設計面に反映させた。
- ・1階は、気軽にゆっくりと過ごせる、サードプレイス的な場所とし、本を好きになるきっかけを生み出す場、おしゃべりができる場とし、2階は、集中して本と向き合える静かな場所とする。
- ・1階、2階を利用者スペースとして使用するため、更衣室、会議室、倉庫などの職員スペースを地下に集約する。
- ・1階は、メインランスを北側に設けて駐車場からの出入りをスムーズにする。また、建物東の出入り口を公園側に移動させて、公園との一体的な利用ができるようにする。
- ・館内は、ゆっくり過ごせるカフェスペースや児童コーナー、新しい体験につながるイベントスペースやギャラリーを設けて、これまで図書館に足を運ばなかった人も立ち寄りやすくなる場所にしたい。
- ・2階は、たくさんの本を配置し、外を眺めてゆっくり読書を楽しんだり、勉強やテレワークに集中したり、それぞれが自分だけの時間を過ごせる静かな空間とする。
- ・現在のメインカウンター前の吹き抜け部分にらせん状の階段を設けて、2階の本に囲まれた空間へ導く。
- ・東側の公園との行き来をスムーズにして、公園との一体感を創出したいと考えている。
- ・公園側エントランスから芝生の丘が、公園に向かって広がり、エントランス北側には、友達とおしゃべりしたり、公園で遊ぶ子どもを見守りながら本を読んだりできるようなテラスを設けたい。
- ・今後は、詳細に内容を詰めていく実施設計業務を7年度から8年度に、改修工事を9年度から10年度にかけて行い、その後開館する予定で進めていく。

【質疑・意見】

(委員)

- ・アンケートに回答した際にしおりをもらった。図書館らしいきめ細やかなサービスで感心した。
- ・自分が使っているしおりを本に挟めたまま返却したが、連絡をくれて感心した。
- ・市民とともに変革を進める図書館について、目標設定90%に対して実績が低い水準である。図書館が頑張っているのはわかっているので、目標値を見直してもいいのではないか。

(事務局)

- ・しおりは職員が手作りで制作している。市民の皆様には大変好評をいただいている。
- ・利用者アンケートの中で、職員の対応について満足している方の割合が高い。
- ・目標値の見直しについては、来年度以降サービス計画を策定していく中で検討していきたい。

(委員)

- ・「授業時間以外で読書をする時間」とは、学校生活における読書時間と家庭生活での読書時間のいずれか。

(事務局)

- ・学校教育課が実施したアンケート結果であるが、この項目は家庭生活における読書する小学生の割合を示していると思われる。

(委員)

- ・大規模改修について、「有識者の意見交換」とあるが有識者とは誰か。

(事務局)

- ・アドバイザー契約を結んでいるアカデミック・リソース・ガイド社や佐賀市議会等の意見。

③令和7年度重点事業の経過報告

(事務局)

○学習成果を発表するための取組

- ・「市民が学習成果を発表するイベント等の検討」は、1階児童コーナーにおいて、子ども司書おすすめの本の展示や手づくり絵本の作品展を開催
- ・「対面朗読ボランティアによる対面朗読の実施」と「花ボランティアによる館内等の花による飾り付け」は、予定どおり実施できている。
- ・「読み語り講座」は、計画を前倒し、2回実施予定のうち1回目を9月27日に実施した。
- ・下半期は、「調べる学習作品コンクール優秀作品」の電子図書館への登録や、「対面朗読ボランティア初級養成講座」、「音楽フェス」等を予定している。

○図書館と接点のない保護者に対して興味を持ってもらう取組

- ・乳幼児を含む子どもたちが図書館に足を運んでもらうためには、保護者である子育て世代にイベント等の情報を知ってもらうことが大事だと考えており、大人に向けた情報を発信している。
- ・おはなし会の案内、新しく入った本の紹介、赤ちゃん絵本ガイドブックを作成し、それらの配布を行うことで情報発信している。

○高齢者が健康で生きがいを持って生活するために図書館ができることの検討

- ・高齢社会において、高齢者とその家族や関係者等が、健康で生きがいを持って生活するための情報を得る場として、図書館が果たす役割は重要だと考えられる。
- ・健康維持や生きがいづくり、介護や認知症サポートなど、高齢者に向けた情報のほか、家族や関係者等、高齢者を支える人も視野に入れて、提供する情報を検討して、可能なものについては下半期に実施したい。

○電子図書館システム運用管理事業

- ・2年間の試験運用期間を経て、事業の方向性や取り組み方などもわかってきたため、現行の電子図書館システムを継続することとした。なお、今後の運用においては、佐賀県PTA協議会様からいただいた寄附金を活用する。

○大規模改修事業(R7 年度:基本設計策定・実施設計着手)

- ・設計事務の実施と、工事期間中と改修後の運営方針についての検討を行った。また、工事期間中の仮移転先の調整を関係部署と行った。

○業務継続性の向上や危機管理に関する取組

- ・災害時や、今後の工事期間中や改修後の図書館サービスの提供に影響が出ないよう、電話設備のデジタルトランスフォーメーション化や、図書館情報システムの市役所本庁舎内への移転について検討している。
- ・特に電話設備は、今年1月から導入している自動応答システムの安定運用と、電話回線の主装置や機器のデジタル化についての調査を行っている。

【質疑・意見】

(委員)

- ・新生児のいる家庭に対して、集団検診の際などにおすすめの図書を掲載している赤ちゃんパンフレットを渡していると思うが、それを見て来館した人はどれくらいいるのか。
- ・アンケートばかりでは、答える側もうんざりするので、新生児と本の出会いは大切なので、図書館へ行きましょうだけではなく、保護者へ有益な情報を発信すべき。
- ・赤ちゃんパンフの活用の仕方を模索していくべき。

(事務局)

- ・赤ちゃん絵本ガイドブックは乳児家庭全戸訪問の際に配布している。
- ・この活動が登録に結び付いたかは把握できていないが、親世代の登録状況には注視している。子どもの周囲の大人たちへ情報提供することが子どもの読書につながっていくと考えている。

(事務局)

- ・各種 SNS の活用等進めていきたいと考えている。
- ・市公式 LINE を使って、子育て情報やおはなし会の案内をしている。
- ・改修後は若い世代に来てほしい。子育て世代への PR やイベントを考えたい。
- ・子どものうちから読書する習慣があると大人になっても、読書の習慣が継続するため、乳幼児のいる家庭に啓発を行いたい。

(委員)

- ・今年度の他部署イベントに集客が多く感じたので、来場者にどのようにイベントを知ったかを確認したところインスタグラムが多かった。図書館はインスタグラムを活用しているか。

(事務局)

- ・市立図書館もInstagramを活用している。

(委員)

- ・高齢者の図書館利用について、高齢者で SNS の利用が難しい場合もある。地域の自治会や民生委員さんなどの力を借りながら高齢者の皆さんにも情報をしっかり届けていかなければならない。(意見のみ)

【質疑・意見(全体)】

(委員)

- ・おはなし会のボランティアからの要望だが、おはなし会の道具など、改修工事期間中の荷物の置き場所を図書館から幹旋してもらえないか。
- ・改修後はボランティア室のスペースが狭くなると聞いたが、十分な広さが確保されるのか。

(事務局)

- ・荷物の置き場所についてはボランティアの皆さま等から個別に要望をいただいている。
- ・ボランティア室は、活動の内容がより来館者に伝わるように、設置場所を1階にする。
- ・スペースは倉庫を別に設けることもあり、現在とあまり変わらない。

(委員)

- ・改修後は開架率が下がるので、配架もフェイスアウトするなどしてほしい。開架率はできるだけ増やしてほしい。
- ・司書を専門職として雇用してほしい。

(委員)

- ・新しいことを始める際は広報が大事になる。予算措置がないように思えるが、しっかり力を入れて広報を行うべきである。

(事務局)

- ・正規職員の専門職枠については、人事課へ要望はしている。

(事務局)

- ・次回の図書館協議会は、令和8年3月に予定している。
- なお、委員の任期は11月30日までなので、現体制での協議会は今回が最後である。